

郡下一齋に

農會の總選舉

堅實なる發達を企圖し

新法に基く最初の改選

本郡下系統農會總代ならびに役員は來る三月三十一日をもつて任期満了するので翌四月一日郡下卅四ヶ町村農會一齊にこれが總代改選を執行するのでその選舉有権者名簿を本月三十一日現在により調製する筈である。因に縣下農村事情の推移は農會の總代會をはじめ組織及び議事、選舉に關する規定等の整備により一層堅實なる發達を企圖し農林省令をもつて農會法及び施行規則を改正しその新法に基き改選執行するもので從來總代人の定数は二十人以上の規定であつたのを今回は改正規則により農會事情に徴し

としてを總代人選舉要項左の如し

▲選舉人名簿の縦覽 二月二十日より三月五日迄十四日間毎日午前十時より午後四時迄關係者の縦覽に供すべきものとす、而して右期間中は日曜日休日に相當するも縦覽を許すべきものとす

▲總代選舉施行公告 會則第十六條に依り遅くも三月二十五日迄に選舉會場、投票の日時選舉すべき總代數及選舉管理者を公告すること選舉區を設くる農會は選舉區毎に之を爲すこと

▲選舉立會人の選任 會則第十六條第三項に依り會長は遅くも選舉の前日に選舉人名簿に登録せ

られたる者の中より二人乃至四人の選舉立會人を選任し之が承諾書を徵すること

▲投票用紙 投票用紙は會長に於て一定の式を定め調製したる數量及使用したる數量を明確に爲し置くこと

▲選舉會場の設備 1場外より會場内を窺ひ得ざる様設備すること 2完全確なる時計を設備すること 3會場は混雑を來さざる様設備すること 4管理者立會人臨監督警察官の席を設くること 5選舉會場入口には選舉會場なる表示を爲すこと

酒造組合は來る廿二日午前

高麗橋を中心として

眞木翁の懷古事談

奇傑 江政敏 (八)

……愚庵記の續き……
復た場所を赴かず、直に舟を棄て、其寓居に歸る此夜歌々眠らず、天明く來り呼ぶ者あり、曰く川尻海岸並に大漁非常也主人獨り何ぞ、自ら來らざると君此

聲を聞き賑起場所に至れば巨鮮濃測沙場に充滿す、對岸又山積する者幾堆衆指て曰亦我有なりと、君覺へず快と呼ぶ者數聲傭夫等も亦相歡呼す、而して意氣頓かに十倍す、是れより連日大漁あり、此一期に於て八百餘石を收穫せし、乃ち、傭夫

十時より平稅務署に於いて總會を開き決算及び豫算並に役員の改選を行ふと

荒井豫審判事

平區 仙臺へ榮轉す 裁判 所豫審判事荒井虎雄氏は此程仙臺地方裁判所豫審判事に榮轉後任は現在の平區裁判所判事關口楫氏に決定したが關口氏の後任は若松區裁判所から小林登一氏が來任する由

市外電話擴張 平郵便局の市外電話は此程茨城縣赤塚局、千葉縣、飯岡局

風浪高く

漁港工事中止

昨夜からの風強く目下修築工事中である四倉、江名仲ノ作の三漁港はいづれも荒浪が押寄せるので作業を繼續する事が出来ず本日は三港共作業を中止したが今の處破損箇所はないので風が止み次第早速工事繼續する

橋梁工事

五萬圓で着手

平土木監督所の橋梁復舊工事として目下設計中のものは下小川村の小川橋、上遠野村大山橋、川前村中川橋

平青訓は

平窪校庭で 郡下青年訓練所の査閲の爲め既報の如く福島隊區司令部佐川三郎中佐來郡去る十四日小川、赤井第一第二を皮切りに開始されたが平町は明十八日午前八時から平窪小學校々庭に於て同村青訓と共に執行、尙來る二十一日夜の湯本及二十三日鹿島の査閲には聯隊區司令官眞山大佐が臨席の由

警女新任教諭

過般 退職された警女教諭相徳秀子氏の後任は此程相馬高女の赤木軍喜氏に決定

自動車役員會

警城 自動車協會支部役員會は來る十八日午後一時より平署會議室に開かれ左記三件を協議する

一、自動車検査場設置起工の件

一、負擔金徴收に關する

の三橋で總工費は約五萬圓で本月下旬より着工の豫定である

平町人事

件 一、交附金募集に關する

件 一、交附金募集に關する

件 一、交附金募集に關する

件 一、交附金募集に關する

件 一、交附金募集に關する

毎度有難う存じます
レストラント
来會館

木村科醫院

平町六丁目橋際
電話三〇九番

一册の代金

御希望通りな
五册の雜誌が
自由に讀める

川崎文庫

電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

米穀商の営業権を奪ふ法案に大反対

平米穀商六十八名の死活に關する重大事

政府は米穀統制法の補強工作である米穀自治管理法案を今期議會に提出せんとし居るが此の案に依ると

生産者 から直接消費者へのモットーに農家の生産米は悉く強制的な販賣組合の統制下に置き断じて米穀商人の介入を許さず從來の配給機關を破壊し米穀商をノックアウトして居るの

で全国的に反對阻止の運動が擧げられる

氣勢 を示して居るに鑑み平米穀商組合にても此の案の實施は六十八名の組合員の營業権を奪ふものとなし理事根本品蔵其他の諸氏が對策樹立に關し菅本組合長に建言する處あり近く政府に向つて熾烈な反對運動を起す模様である

三大炭礦の大奮發

平署が縣下一の負擔額を責任完る

恩賜財團濟生會の寄附

恩賜財團濟生會の平署割當寄附額は縣下最高の一萬三千圓である爲め同署では同寄附額の募集に署長以下大童で活動中であつたが昨日横山署長は磐城入山、古河の三大炭礦に折衝した處打合せの結果炭礦側から六千圓の寄附をポンと投げ出したので既に募集高は一萬二千八百五十五圓に達し残す處僅かに百四十五圓となつた

第一校剣道部

けふから練習

平第一小學校剣道部は明十八より三十一日迄毎日朝及び放課後の二部に分れ郡下小學校兒童剣道大會出場の練習を兼ね寒稽古を行ふので今十七日午前十一時より講堂に於て發會式を舉行したが指導員は左の訓導であ

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 幼年童話「熊のおみやげ」 木下龍一
- 後六、二五 農村副業講座 「農村工業の話」 見坊兼光
- 後七、三〇 講演「凶作の科學的對策」 農學博士 遭難記、劍舞白虎隊、掛合 萬歳等男子も及ばぬ珍藝奇
- 寺尾博
- 後八、〇〇 謠曲寶主重英
- 後八、四〇 ギャイオリンと管絃樂 鷺見四郎
- 後九、一〇 長編新作ラヂオ小説「犬娘」(二) 市川八百藏一座
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

矢張り恩給は返還させらる

離籍が中心の問題

既報十九年間に受けた夫の恩給約二千圓の返還を恩給局から迫られて居る平町才穂小路久栖サダ(こ)さんは其後恩給改正法第八十條を楯にとり子供と共に夫の籍を離れたのであるから當然恩給を受ける資格があると恩給局に異議の申立をしたが恩給改正法の施行される前に離籍せる理故で恩給局から却下されたので矢張り返還は免ない模様であると

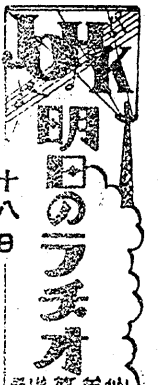
蛭田氏の不幸 常磐銀行平支店蛭田利光氏の母堂タカは過般來病氣の爲め郷里川部村山玉で静養中の處療養叶はず去る十四日逝去された葬儀は明十八日郷里で執行する由

入營兵の爲めに列車を増結する

十八、九兩日の平驛

平驛は郡下より入營する壯丁及び付添人等の混雑を緩和する爲め十八、十九の兩日平驛發着線十五、十七兩列車に各一輛を増結する

平職案紹介所報告
回人を求める方
△小店員 十七才 尋卒 月六、七圓



明日のラジオ

今晚も明日も北西の風天氣良くなる

明日の

- 前七、〇一 基礎佛語講座 (二) 丸山順太郎
- 前七、三〇 聖典講義 大學(七) 文學博士秋月胤繼
- 前一〇、三〇 母の講座 「兒童の情操教育」(二) 高崎熊夫
- 後八、〇〇 合唱 東京合唱團
- 後二、〇〇 家庭講座「家庭生活の變遷」 東大教授 戸田貞三
- 後三、〇〇 春場所大相撲 實況(八日目) 兩國國技館
- 炊事婦 三十位 委細面談
- 料理店雜役 二十位 委細面談
- 農夫兼女中 二十以下 年給五、六十圓 回職を求める方
- 採炭夫 四十三才 無學
- 出前持 二十四才 尋卒
- 農夫 四十九才 尋卒
- 外交員 三十二才 中四 修 以上いづれも給料面談

洋食 喫茶 宴会

エビフライ ビフテキ

コンパル

電話・666

平驛前新道通り

かまぼこ 製造

お物菜用 さつま揚 吉原揚

お茶屋

電話一四一番

